

**R7年7月放送分**  
**「東北防衛局の広報紙について」**  
**(日本の防衛Q & A)**  
**(自衛隊百科)**

**R7.6.27収録**

【パーソナリティー】

本日は、「東北防衛局の広報紙」をテーマに、東北防衛局報道官の佐藤さんと総務課の仮名さんから、お話を伺います。よろしくお願いいたします。

【職員2名】

よろしくお願いいたします。

【パーソナリティー】

はじめに自己紹介をお願いします。

【佐藤】

東北防衛局報道官の佐藤です。昨年7月の放送にも出演させていただきました。分かりやすい説明ができるよう、頑張ります。

【仮名】

総務課の仮名です。福島県会津地方出身で採用6年目、広報紙に携わり3年目となります。よろしくお願いいたします。

【パーソナリティー】

ありがとうございます。

それでは、今回のテーマの東北防衛局の広報紙について、お話をお願いします。

【佐藤】

東北防衛局では、四半期ごとに「東北のかなめ」というタイトルの広報紙を発行しています。

「東北のかなめ」は、東北防衛局が防衛行政全般の地方拠点として設立された平成19年に創刊され、今月（令和7年7月）、最新号の第

69号が発行されました。

**【仮名】**

東北防衛局と同じ期間の歴史を持つ「東北のかなめ」ですが、より良いものとするため、今年1月に発行した第67号から、構成等を見直し、リニューアルしました。

**【パーソナリティー】**

これまでの広報紙と、どう変わったのでしょうか。

**【佐藤】**

まず、広報紙を発行する目的を「東北6県において、地域と防衛との共生を促進するため、地域と防衛との架け橋になっている東北防衛局の活動をメインに、関連する情報を発信する」とことと設定しました。

**【仮名】**

また、広報紙を手にとって下さった方に、表紙を見れば、私たちが広報紙で伝えたいことが伝わるよう、その目的を表紙に掲載しました。

**【パーソナリティー】**

「地域と防衛との共生の促進」が広報紙の目的なのですね。では、構成・内容はどのように変わったのでしょうか。

**【佐藤】**

「地域と防衛との共生の促進」という目的に沿った形で見直し、「東北防衛局の活動の紹介」と「関係する皆さまからのご寄稿」による二つの柱とした構成に改めました。

**【パーソナリティー】**

私の手元にも「東北のかなめ」があるのですが、目次を見ると、「東北防衛局の活動」が前半、「地域と防衛との共生：関係する皆さまからのご寄稿」が後半という構成になっていますね。

それでは、「東北防衛局の活動」は、どのような内容になっているか、ご紹介をお願いします。

### 【佐藤】

東北防衛局は、地域のみなさまと自衛隊・在日米軍を繋ぐ架け橋として、様々な活動をしています。「東北防衛局の活動」では、そのような活動を中心に、関連した情報を紹介しています。

### 【仮名】

例えば、去年の秋に行われた日米共同統合演習を紹介する記事では、演習の概要を紹介しつつも、「東北防衛局は、訓練期間や参加部隊、使用する装備品、基地外への影響の有無といった訓練内容を地元自治体に説明した」こと、また、「地元自治体においては、地域に不安を与えないよう、周辺住民に訓練内容をお知らせするなど、円滑な訓練の実施についてご協力をいただいた」ことなど、演習に関連した東北防衛局や地元自治体の活動に焦点を当て、紹介しています。

### 【パーソナリティー】

では、二つ目の柱「地域と防衛との共生：関係する皆さまからのご寄稿」は、どのような内容なのでしょうか。

### 【佐藤】

防衛省・自衛隊の様々な活動は、地域の理解と協力があって初めて可能となるものであり、地域との信頼をより一層深めていく必要がありますが、そこには様々な人達が関わっています。

このような観点から、地方公共団体、米軍、自衛隊の部隊、国の機関、民間企業など、関係する皆さまから、「地域と防衛との共生」をテーマにご寄稿いただき、関わりや取り組みを紹介しています。

### 【パーソナリティー】

具体的にどのような内容なのでしょうか。

### 【佐藤】

リニューアルした第67号では、青森県三沢市様から、米軍や自衛隊が積極的に参加し、協力している「お祭り」について、ご寄稿いただきました。また、三沢米空軍から、周辺地域や遠方からも多くの方が来場する「三沢基地航空祭」について、ご寄稿いただきました。

ほかにも、陸上自衛隊東北方面隊からは「災害対処訓練」を、防衛

省本省からは「米軍戦闘機の態勢更新」、株式会社中屋敷建設様からは「自衛隊施設の建設工事」について、ご寄稿いただきました。

【パーソナリティー】

様々な分野の方が、「地域と防衛との共生」について、関わりを持っているのですね。

【仮名】

はい、そのとおりです。広報紙「東北のかなめ」が、地域と防衛に関心を持つ人のフォーラム（集いの場）になればと思っております。

【パーソナリティー】

ラジオでは、リスナーの興味に重点を置いているところですが、広報紙「東北のかなめ」では、読者を獲得するためにどのような努力をしていますか。

【佐藤】

「東北のかなめ」は、東北地方の各地方公共団体や大学、高校などに配布しています。また、東北防衛局のホームページにも掲載しているのですが、そのことを知ってもらい、スマホなどでも気軽に見ることができるよう、表紙に二次元コードを掲載しました。

また、防衛セミナーのような行事や会議の場を活用して、宣伝するようにしています。

【パーソナリティー】

読者を増やすため、様々な取り組みをしているのですね。

ところで、「東北のかなめ」の作成や周知に、ずいぶん力を入れているようですが、そもそも、なぜ、力を入れているのか伺っても宜しいでしょうか。

【佐藤】

東北防衛局は、二つの観点から、「東北のかなめ」を含め、広報を重視しています。

一つは、東北防衛局の活動など、東北防衛局のことを知って頂きたいからです。

二つ目は、東北防衛局の職員のやる気を高めるためです。

ラジオの出演者の皆さんやリスナーの皆さんも同じだと思いますが、自分や自分の仕事が広報されれば、とても嬉しく、やる気が高まることも多いと思います。

#### 【パーソナリティー】

東北防衛局を知ってもらうことだけでなく、職員のモチベーションに繋がることを期待されているのですね。とても深い意味がありますね。

それでは、最新号についてお知らせをお願いします。

#### 【仮名】

最新号の第69号は、今月発行しました。

巻頭では、今年3月に宮城県大和町で開催した「第46回防衛セミナー」を特集しています。

そのほか、東北防衛局の活動では、防衛省の補助事業として整備が進められていた「むつ市防災食育センター」の落成式、東北防衛局が造船工事の監督検査を実施する海上自衛隊の支援船「油船（あぶらぶね）」の起工式などの記事を掲載しております。

また、関係する皆さまからのご寄稿では、青森県むつ市様から「下北ジオパークとグルメの紹介」、今年3月に新編された海上自衛隊大湊地区隊から「大湊地区隊の新編と地域との共生」について、ご寄稿いただきました。ほかにも、米陸軍車力通信所、株式会社SHOEI 岩手工場様、上北建設株式会社様からのご寄稿も紹介しています。

#### 【パーソナリティー】

大変興味深いですね。私もゆっくりと拝見させていただきます。

本日は、東北防衛局の広報紙について、佐藤さんと仮名さんにお話をお聞きしました。ありがとうございました。

#### 【職員2名】

ありがとうございました。

#### 【パーソナリティー】

このコーナーでは、よりよい内容にしていくため、ラジオをお聞き

の皆さまからご意見・ご感想を募集しております。お聞きのコミュニティ放送局までご連絡ください。